

こもれび



いのちはどこから来るのだろう

栗の肌は、木目を生かした家具のようで、とてもきれいです。深みのある自然な美しさに輝いているのは栗の実で、私たちがおいしくいただいているのは、実ではなく種です。

栗はイガによって昆虫などから種を護り、成熟すると殻が開いて地面に落ちます。それを動物に食べてもらうことによって、種をより遠くへ運んでもらい繁殖する目的を持っています。この上の画像の栗も、このようにして動物に食べられた糞から生まれてきたのかもしれない。

左の画像の野ばらは、鳥の糞などに混ざっていた種がうまく発芽(実生)したものです。以前もこのようにして成長して白くて甘い香りの花を



咲かせたことがあったので、今からとても楽しみです。

この野ばらは、実生で育ち野生的で生命力が強いからでしょうか、まわりの草よりも葉は硬いにもかかわらず、アゲハチョウが卵をいくつも産み付けたりします。卵から孵った幼虫は、最初はこげ茶と白の平たい形をしていて、次第に保護色になって、サナギから成虫へと成長していきます。

さて、この野ばらにいのちを与えた種は、どこの土地から、どのような鳥が運んできたのでしょうか。

また、一方では、野ばらにいたアゲハチョウの幼虫は、保護色に変わって無防備に葉を頬張っているけれども、一寸先のことはわからず、常に死と向かい合わせです。

秋の庭の片すみで、私たち人間と同じように、いのちの不思議と一期一会のこの世でのご縁を垣間見た気がいたします。



お茶の子さいさい

第2回 急須も語る

みなさま、お元気でお過ごしでしょうか。今回は、長々と自己紹介をいたしました。今回は急須のお話です。



次は、急須の口を見てみましょう。ただの筒型ですと、裏漏りといって、注ぎ口から下の方へお茶が伝わりやすくなりやすいので、注ぎ口は反り形になって上、先端が微妙に、取っ手に傾けてカットしてあるのが、写真でおわかりいただけでしょうか。お茶を注ぐときは、真横でなく、少し手前に向けてやることになるので、こんな形になりました(もちろん、左利きの方用の急須もございます)。

みなさまがお持ちの急須は、どのような素材でしょうか。有田焼などの磁器製、ガラス製、昔ながらのアルミ製などをお使いの方も多いと存じますが、一般にお茶屋では、愛知県常滑焼、三重県萬古焼といった、素焼き(焙器)と呼ばれる陶器製を取り扱うことが多いです。



「素焼きの急須はおいしいお茶を淹れられる」などといわれますが、いろいろな素材の急須を使い、お茶の種類やお湯の温度などは同じ条件で、お茶を淹れている様子を見ないまま、飲み比べをしてみようという実験を行ったところ、ほとんど味の差がわからなかったという、笑えない結果もあつたそうです。それでも、「なぜお茶屋が常滑焼・萬古焼の急須を扱うのか」といえば、答えはずばり、「使いやすい」からです。

さらに、持ち手の角度や形はどうでしょうか。戦前、畳で生活していたころは、胴体に対し持ち手が40度前後の角度になるよう作られていたが、テーブルと椅子の生活が主流となった現在は、20〜30度程度の急須が増えてきました。

また、急須の持ち手と注ぎ口の角度は、直角ではなく、八十五度から八十七度につけられています。これもお茶を注ぎやすくするための工夫です。

急須の特徴は、文字にするとうっかりづらいのですが、改めてじっくり観察してみると、新しい発見があると思います。胴体・口・持ち手・蓋・網をそれぞれ別々に作り、乾燥させ、貼り合わせてから、細かい部分を調整し、焼き上げる作業はとても繊細です。

現在では、高度な技術の担い手が大幅に減少し、販売されているものも多くが、手作り(ろくろ引き)でなく、型を使った成形となり、外国製でも使いやすい急須が出てきています。

それでは、普段お使いの急須をじっくり眺めてみましょう。

まず網。常滑焼・萬古焼以外の急須は、ほとんどのものに、ステンレスや樹脂製のカップ網がついています。このカップ網、茶殻を捨てるにはとても都合が良いのですが、おいしいお茶を淹れるには、あまり適していません。急須に直接ついている網に比べ、お茶っぱの広がる面積が少ないため、お茶の旨みを十分に引き出すことができないのです。

お茶屋で扱う急須には、ステンレス製のものだけでも、平網・帯網・底網・さわやか網・フランコ網など、名前だけでは形を想像できないような網が十種類以上あり、それぞれ特徴が異なります。どうやってお茶を淹れるか、使ったあとのお手入れはどうするか、茶渋がたまつたとき、どうやって掃除するか。その方の生活様式によって、おススメする網が変わります。

この他、昔ながらのべそ網や、急須と同じ土で作った細網・セラメッシュ網などは、金属を使いたくない、お茶の味にこだわりのある方向けです。

このコラムをお読みになったら、ぜひお手元の急須を見てあげてください。目詰まりして使いにくい急須は、網の部分を日光浴させてから、乾いたブラシで擦ると茶渋がとれます。漂白剤もよいのですが、ステンレスの網であれば、形状によっては外して洗ったり、新品に取り換えたりすることができるともありません。お近くにお住まいでしたら、使いにくい急須を店にお持ちいただければ、お手入れ相談も承ります。

新しい急須を購入する際は、外見のデザインだけでなく、生活様式、湯呑みの大きさや個数などを考えながら、実際に手に取って、お茶を注ぐ真似をしてみましよう。持ち手の長さが少し違うだけでも、持ちやすいかどうかが変わってきます。気に入った茶器を使えば、お茶もおいしく淹れられるはず。楽しみながら、選んでいただくたく存じます。

急須の話になると止まらない私にお付き合いくださいましてありがとうございます。常滑焼・萬古焼の急須は、使えば使うほど、表面がツルツルになり、つやが出て来ます。ぜひ、かわいがってあげてくださいませ。



ささめ網



でべそ網



帯網



平網



カップ網



網代園

〒192-0081 八王子市横山町10-14
Tel.042-643-0333
Fax042-643-0334
定休日 土曜日
営業時間 平日 9:00~19:00
日曜・祝日 9:30~18:00

『お箸と風呂敷でぬくもり溢れる平和な世界を』

第6回 ～ 包むということ ～

浅海 理恵



あさみ りえ/株式会社レ・ミゼラ 代表取締役、Les Misera Culture School～日本に息づく心配り～運営・講師。音楽・舞台業界、製薬医学業界での勤務経験を経て、2011年3月15日に独立。事務業務の代行を行う事業を営む傍ら、『お箸と風呂敷は心を育ててくれる存在である』という想いの下、“お箸”と“風呂敷”をアイテムとして“日本に息づく心配り”の伝承に努めている。1児の母。

◎ 浅海先生が YouTube チャンネルを開設されました。
Les Misera Culture School 関連サイト <https://linktr.ee/misera>



(c)Les Misera Inc.

季節に合う柄や、お相手の好みのデザインのお風呂敷を用いたならば、如何にあなたが一緒に過ごす時間を楽しみにしていたかがお相手に伝わることでしよう。またモノを包む素材としては、木や紙、藁や土、草などがありますが、中でも風呂敷に代表される布は、肌触りが柔らかく、お相手の心にも、自分の心にも、温もりを与えてくれます。

季節に合う柄や、お相手の好みのデザインのお風呂敷を用いたならば、如何にあなたが一緒に過ごす時間を楽しみにしていたかがお相手に伝わることでしよう。またモノを包む素材としては、木や紙、藁や土、草などがありますが、中でも風呂敷に代表される布は、肌触りが柔らかく、お相手の心にも、自分の心にも、温もりを与えてくれます。



平包み



お祝い包み

(c)Les Misera Inc.

いかがですか。包むという行為には、一定の時間を要します。また先述の通り、素材や色、柄を選びますし、

さて今回は、風呂敷のもう一つの所作「結ぶ」という行為を掘り下げてお届け致します。どうぞお楽しみに。

包み方もTPOに合わせてアレンジします。故に「包む」という所作の間には、心をも包み込むことができるのです。そこにはただ単に中に放り込めば事足りてしまうビニール袋や紙袋の文化では適わない、日本の精神文化、こころの表現が現れます。そしてそれはあなたのセンスとしてお相手へ伝わり、延いてはあなた自身の自己表現のひとつとなるのです。

その他にも布は、どのような糸で織られたかによって格が表現されています。例えば、絹糸で織られた風呂敷はフォーマルな場面において使用することができ、綿で織られた風呂敷はどんなにおめでたい柄が描かれていたとしても、カジュアルな風呂敷包みにしかなり得ません。

ことができるのです。例えば、フォーマルな贈り物であれば、お使い包みではなく、平包みでお持ちする、お悔やみの席では慶事包みをしない、などといった具合です。

皆さま、こんにちは。前回のコラムにおきまして、風呂敷には大切なモノを保護するという、今も昔も変わらぬ原点が存在し、包むという所作は、日本人の精神の礎にあるということをお伝えしました。今回はその「包む」という所作について、もう少し掘り下げてみたいと存じます。

「包む」という漢字は、「つづみかまみ」の中に「己」と書きます。「つづみかまみ」は、人が体を曲げて何かを大切に守っている姿を表していると言われており、「己」は、胎児が形を作ろうとしている姿を表していると言われています。つまりこの「包」という漢字は、人が懐妊して胎児がお腹の中にいる姿を象徴したものであるというのです。「包む」という行為そのものが、如何に対象物を大切に想いながら行う所作なのか、慈しむ心を表す所作なのかを感じ取ることができます。

語源説

「つづむ」という言葉には、いくつかの語源説があり、それぞれに「包む」という所作の本質が見出されています。こちらはその一例です。

・慈しむ説

「つづくしむ」はもともと「つづむ」という大和言葉からきた言葉であったと言います。故に、慈しむ心から包み、その形に造形美を感じるように移行したものが包むことであるというのです。

・美しむ説

「うつくしむ」は「うつくしい」の古語であり、「いつくしむ」の「い」が音便化したものであると言います。故に、大切に、愛おしむが包むことの本質であるというのです。

・慎む説

奈良時代には「つづむ」と「つづしむ」という言葉の間に区別がなかったと言います。故に人を敬う心は慎む(包む)ことによって表現されるというのです。



(c)Les Misera Inc.

どの説も心に響きますよね。いずれの説においても「包む」という言葉の持つ温もりを感じるのには、私だけではいかと存じます。

包む日本人

日本人は、大切なモノは必ず何かに入れて運ぶ、保管したり、持ち運んだり、お渡ししたりします。例えばお金をお渡しする際、そのままではお渡ししませんよね。慶弔等の場面や金額、間柄を考慮の上、水引や熨斗袋を選び分け、気持ちを表現して包みます。日本人にとって包むという所作は、モノを大切に扱う所作のひとつであり、想いを表現する手段の一つになっているのです。

11月12月・セミナーのご案内

■「葬儀保険」って何？ ～ 葬儀費用と葬儀保険について ～

11月27日(土) 午前10時～11時 定員10名 (無料)

講師：上原 武史 (式典部・一級葬祭ディレクター)

場所：こずもす斎場 (八王子市元横山町 2-14-19)

自分のお葬式はいくらかかるのか？
家族葬だと安くなる？
一日葬だと安くなる？
お布施はどのくらい？
よく尋ねられる疑問点にもお答えしながら、
葬儀費用を総額でご案内します。
また、弊社で取り扱いを始め、好評な『葬儀保険』についても、
保険金や掛金加入条件などを丁寧に説明いたします。



■「冬のインテリアグリーン講座」

～ハイドロカルチャーの寄せ植えを作ろう～ 定員 10名

12月19日(日) 午前10時～11時

講師：大谷 知久 (管理部・グリーンアドバイザー)

場所：こずもす斎場 (八王子市元横山町 2-14-19)

会費：会員 500円、一般 1,000円 ※当日入会で会員価格になります。

室内でもグリーンを楽しむことができるハイドロカルチャーは
土を使わないため、キッチンなど衛生面が気になる場所にも
気軽に置くことができます。
今回は、実際にハイドロカルチャーの寄せ植えを作りながら、
日々の管理の方法や楽しみ方をお伝えいたします。
作ったハイドロカルチャーはお持ち帰りできます。

○ 準備の都合上、お申込み時にご希望のタイプをお聞かせください。



A カラーサンド



B ハイドロボール



C ジェリーボール

● 両セミナーに参加ご希望の方は、お電話にて事前にお申し込みください。

■ お申込み・お問合せ先 株式会社 溝口祭典 042-642-0921



今から八十年前の一九四一年十二月八日はどんなことがあった日でしょうか。
こもれび読者の方で、その日の記憶があるというかたは、少ないとは思いますが。
この日は、日本海軍が、アメリカ太平洋艦隊とその基地があるハワイ・オアフ島の真珠湾を攻撃した日です。真珠湾に停泊中だったアリゾナなどの戦艦が日本の攻撃により撃沈し、一七七名の乗組員のうち一〇二名が亡くなりました。戦艦アリゾナとその乗組員を追悼すると共に、真珠湾攻撃自体を記念する施設として作られたアリゾナ・メモリアルは、戦艦の遺構上部が取り外され、水中に残された下部の上に建設されています。
現地に着いたら
建物内の展示物を見学し、この戦争について十五分ほどの映画を見てから、ボートでメモリアルに移動します。



戦争が残したもの —— アリゾナ・メモリアル

私がここを初めて訪れた二十年以上前には、日本人の姿は見受けられず、自分が当事者になったような、なんとも言えない居心地の悪さを感じました。亡くなった人の名前が刻まれた碑をみている人やアリゾナを見下ろしている人たちの顔には、笑顔はなく神妙な面持ちです。空も海も青く、美しい景色の真珠湾ですが、何十年経っても戦争という爪痕が残っていることを感じずにはいられません。
時折、戦艦アリゾナからブカリと重油が海面に浮かび上がってきた。これを見ると人々の記憶の中にある戦争はまだ終わっていないとつくづく感じます。戦争をした国の人間として、二度と戦争を起こしてはいけない、戦争を繰り返さないという声を上げ続ける責任があるとも思っています。
美しい海や青空が代名詞の楽園ハワイに、こんな歴史があったと知る意味でも、是非若い世代の人達にも訪れて欲しい場所の一つです。

伊藤恵里子 (第十六回)

自然の中で見つけた一コマ こすもすギャラリー II



「謙虚」 新島京子様
金木犀の花言葉は「謙虚」だそうです。
たしかに…、こんなに強く、良い香りをふりまくのに、お花は木の葉に隠れるように「いえ私なんて…とんでもない」と言っているようですね⑤ 今年は気候のせいか2度咲きのニュースを聞きます。お写真は1度目ですが、うちも今2度目が香り始めました。



「大切な人を想う」 新島京子様
お彼岸は過ぎてしまいましたが、昭和記念公園の彼岸花です。圧倒的な赤に引き込まれそうになり時々怖くなりますが、彼岸花が咲くと、ご先祖さまに想いを寄せるきっかけになる気がします。



「いのちを生きている」
実生の野ばらの葉をおいしく食べているかわいらしいアゲハチョウの幼虫。歳の離れた兄弟みたいです。鮮やかな色をまとった蝶に成長するために、今から頭にカラー(古い?)をして、おめかしをしているみたいです。



「貴婦人」
銀木犀(ギンモクセイ)は、金木犀(キンモクセイ)よりも、香りが控えめのように感じます。雨に打たれて排水溝に流れるまで、おごそかな様子を魅せてくれるのは、まるで貴婦人のようです。

- こもれびをご覧の皆様から「自然の中で見つけた一コマ」を募集いたします。
「こもれび自然の中の一コマ」というタイトルでメール送信してください。km@mizoguchi-saiten.co.jp
簡単な説明書きを添えていただければ幸いです。よろしく願いいたします。

こもれび 11月号 (次回は1月15日発行) 2021年11月15日 発行 第153号 «4000部発行»
発行/株式会社溝口祭典 発行人/溝口勝巳 〒192-0063 八王子市元横山町2-14-19 Tel.042(642)0921